

# ナラ枯れ被害を防ぐために

北陸・日本海側の森林を中心に「ナラ枯れ」をもたらしている病害虫「カシノナガキクイムシ」が上越国境を越え、群馬県内にも被害が確認されて1年。少しでも被害の拡大を防ぎたいと群馬県、国有林、研究機関、林業関係機関等による現地研修会が9月9日、21日の2回にわたってみなかみ町の国有林で開かれました。

今年の研修会は、主にナラ枯れ被害の判定方法の確認、殺菌剤・誘因剤などによる被害防除法の周知、すでに被害が発生している他県の実績結果の紹介など、できるだけ具体的な対策に結びつく研修となっていくよう内容を考えました。

多くのお話をうかがう中で、防除の難しさや被害地域でこれまで防除に関わってきた関係者の皆さんの御苦勞を改めて感じる研修ともなりました。また、ある研究者の方が「こうした大被害は50年前にも発生している。そのときには地元の住民の方々も一緒になって、当時必要だった燃料材として被害木をただちに伐り出した。これが結局、効果的な防除につながったと考えている。今はそうした手法がとれないことも対策を難しくしているのかもしれない。」と言われていたのが非常に印象に残りました。地域と森林が一緒になって暮らしてきた時代の知恵？だったのかもしれないね。

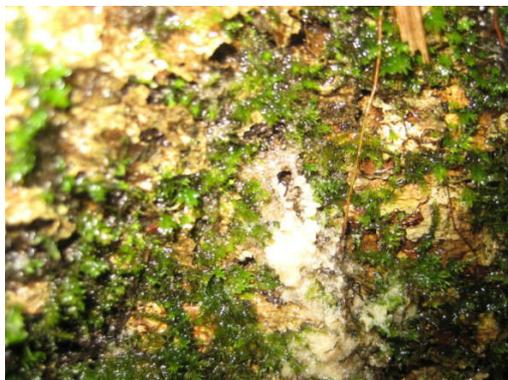
(星野業務課長)



ナラ被害木を観察する参加者の皆さん



クイムシ捕獲のための誘因トラップ



ナラに開けられたせん孔跡



カシノナガキクイムシは  
体長5mmにも満たない